

性格の病理 (二)

東京帝國大學助教

青木誠四郎

一、性格異常

第一には性格異常ミ云ふ事は何ふ云ふ事を云ふか。性格異常は或は性格疾病ミ申しませうか。之は子供の例をこつて見ますミ、此處に一人の子供がある。其子供はAミ云ふ子であるミしますミ、此Aミ云ふ子供は勿論他の子供ミ較べて見て違つた處を持つて居る。そんな子供であつても違つた處を持つて居る。其違つた處ミ云ふのは唯一つの點が違つて居る丈ではありませぬ。先づ第一に身體的に、例へば背が高いミか或は瘠せて居るミか肥つて居るミか、或は顔の恰好ミか身體の恰好が違ふミか云ふ様な事が、外形上の其子供の特徴ミ云ふものを我々に示すのでありますが、單に此身體的のもの許りではなくして、精神的なものを、Aミ云ふ子供ミ他の子供ミ較べて見た違ひがあります。頭の働きから云ふても、一つの推理をさせても、其子供は正しく推理するが他の子供は間違ふ。或は多くの子供の間違ふ様な事を、此子供は正しく推理が出来るときか云ふ特徴がある。或は一つの仕事をしても早くやる場合ミ遅い場合ミがありますが、他の子供が非常に早いのに其子は遅いミ云ふ様なさう云ふ特徴を持つ場合があります。夫は頭の働きであります。感情的のものでも同じであります、一人は或事が起つても怒らないのに、一人は怒るミ云ふ様な事があります、AならAミ云ふ子は他の子供が怒らないのに少しの事に怒るときか、他の子供は非常に沈鬱になつて鬱々ミこむのに、其子供は夫程でないミ云ふ様な特徴がある譯であります。

で斯う云ふ身體並びに精神ミ云ふものが、他の子供ミ何う云ふ風に違つて居るかミ云ふ事、之を難しく云ひますミ、精神物理的、即ち精神ミ身體ミの其人に特有の生活の姿を云ふのであります。詰り身體的にも肉體的にも、之を引包めて考へて其人間の特徴ミ云ふものがある譯であります。之を普通個性ミ云ふ名前と呼んで居るのであります。難しく云へば其人間に特有の精神物理的の生活の姿であります。之が普通云ふ個性ミ云ふ事になるのであります。時には斯う云ふものを稱して性格、ミ呼ぶ事もありますが、一般には我々は個性ミ云ふ様に申して居ります。個性は、其人の其人たる所以であります。其子供の其子供たる所以であります。夫は身體的なものでありませうとも、精神的なもの頭の働きの事でもあれ、感情的のものであれ、さう云ふものを子供の個性、性格ミ云ふ名前をつけて呼んで居る譯であります。であります但其個性を我々が見ます場合に、唯個性ミ云ふものを見て居つたのでは、つきり致しませぬから、其個性をもう少し分析して其問題を分けて考へるミ云ふ事をやるのであります。

此處に一人の人間がある。此個性を考へるミすれば、一つの面の個性ミ他の一つの面の個性ミが他の人間ミ違つた所がある、或は此方の個性ミ其方の個性ミが大體分けられるミすれば、夫を分けて考へるミ云ふ風になつて居る譯であります。さう云ふものの中で人間の頭の働きに關するものを、我々は智能ミ云ふ名で呼んで居りまして、感情並びに意志の働きミは密接して離れざる關係をもつて居りますから、之を我々は情意の個性ミ申して居ります。而してこの感情並びに意志の個性を指して普通に性格ミ云つて居ります。この性格を見ます場合に一人の子供即ちAミ云ふ子供が他の子供ミ違つて居る事は云ふ迄もないのであります、其違つて居るものが何處ミなく變つて居るものがあります。其場合に我々は異常ミ云ふ言葉を使ふ。或は病的性格ミ云ふ言葉を使ふ。

然らば異常ミ云ふのミ正常ミ云ふのミの間に何う云ふ違ひがあるか、其に一つの徴候があつて其徴候を以て正常の子供ミ病的の性格を持つて居る子供を區別する事が出来るか、ミ云ふ事を考へさせられるのであります、さう云ふ様な徴候を

我々が考へて見ますと、さうもさう云ふものは先づない云つて差支へない様であります。例へば落着きがない云ふのは之は一つの病的な名付ける可きでありますが、其落着きのないのが何の程度から云つて落着きのない徴候が表はれて來るか、云ふ事を考へて見ますと、此處から向ふが落着きがない病的性格で、こゝから先きが病的性格じやない、云ふ様な徴候らしい一定した境を立てる様なものはありませぬ。結局我々は普通云ふの、變つて居るの、即ち正常と異常、或は健康と病的云ふ様な事は程度の差でありまして、或一つの徴候云ふものがあつて、夫があれば夫であり、夫がなければ夫でない云ふ様な、性質的なものでない云ふ様に考へた方が正しいのではないかと思ふのであります。此點に就て Engen Kahn が一九三一年に「病的な人格」云ふ書物の中で色々な病的なキャラクターを説いて其結論として病的な人格と我々が云ふのは性質上の問題ではなくして量の上の問題である。言ひ換へれば性質ではなくして分量上の問題である。或性質を澤山持つて居れば病的性格と我々が云ふのであつて、其性質を非常に少なく持つて居れば病的性格とは云はない。云ふ様に云つて居るのが之が大體正しい考へ方であらうと思はれます。夫では我々は此病的な健康と云ふ事は唯程度の差であつて、何も其處に之云つて我々が病的と云ふ事を指す様なものがないか。斯う云ふ事を考へて見ますと強ちさうではないのであります。

いまもう少し立場を換へて考へて見ますと、夫は唯程度の差と云ふ事に止まらないのであります。多少共其處に此處から此方は病的で此處から此方は病的でない、云ふ様な境と云ふものがあるを考へて差支へないのであります。精神分析學派のアルフレッドアドラーは、斯う云ふ性格の問題と云ふ事に就て我々が性格と云ふのは單に現象的なものでなくして、生活課題を解決する努力が精神の表はれとなつて來たもの、生活の課題を解決するのに努力する其働きが精神の表はれとして其處に示されたもの、夫を性格と云ふのである。斯う云ふ事を云つて居る。

こゝに生活課題とは子供が日常の生活をして居る。日常の生活をして居る場合には兎に角一つの課題が與へられて居

る。例へば子供が部屋の中に這入つて自分の仕事を始める云ふ時は、子供は黙つて坐つて居なければならぬ。人話
をせずに、じつと坐つて居なければならぬ。夫は一つの生活課題であります。其生活の課題を自分で解かうとする。夫
が解決の努力であるが、解決する場合に、其人間々々によつて、さう云ふ事に對して表はれて来る精神の表はれ方が違
ふ。或子供は靜かにして居るのに、或子供は隣の子供をつゝいたり、妙な顔をして人を笑はせたりする云ふ様に生活の
現れが違ふのであります。かやうな生活課題解決に對する努力の表れ、夫が性格である。斯う云ふ事を云つて居るのであ
ります。其處で斯う云ふ點から、性格の健康さか、或は病的云ふ事を考へて見ますと、病氣さか、或は異常云ふ事
は、解決の努力をするに拘らず、夫が目的に達する事が出来ない様な形をさる場合で、其目的を達する事が出来ない様な
形をさる時に、夫が日常の色々な生活形態を果す爲に生活の上に差支へを生ずる事を、我々は異常、病的云ふ名前
を付ける事が出来はしないかと思ふのであります。詰り其處に斯うやらなければ不可なり云ふ時に、する事が出来な
い。さうする爲に其子供の日常生活に色々の差支へが出来て来る。之が異常さか病的さか云ふものである。斯う考へてよ
いと思つて居ります。でありますからして、異常性格は日常生活に色々の問題を持つて居る云ふ事になりますし、それ
から異常性格云ふ事は問題を持つて居る云ふ許りでなく、困難を有つてゐるものである云ふ事を示して居る云、斯
う云つてよいだらうと思ひます。詰り我々が、日常の生活に處してあたり前に生活して行く事が出来ない程、自分の精神
の状態に喰違ひが来る。之は病的な性格を彼が持つて居る云へて差支へないのであります。

例へば大人の場合で考へるならば、斯う云ふ様にして大勢の人が集つて居る時に、一刻もじつと居る事が出来なく
て、しよつちう貧乏搖をして居る云ふ事があれば、夫はさう大して差支へがある云ふ譯ではないが、一般の隣の人達
に迷惑をかける。即ち其人が生活課題を解決する場合に、旨くして行けない云ふ事を示して居るものである。其處に問
題がある。其處に其人の性格の問題が控へて居る云ふ云つて差支へないのであります。之を子供の場合にまつて見ますと、

例へば落着きがない云ふ、小さい子供は元來活動的なものでありますからして、之がしよつちうじつこして居る、活動しない云ふ事はありうべからざる事である。若し斯う云ふ様に、非常にじつこして居て活動しない云ふ事があつたならば、活動しない點に其子供の異常性格がある云我々は考へなくちやならぬのであります。大體子供は活動する、が併乍ら、一つの仕事をしようとする、時に、落着きがなく其仕事をじつこやり通す事が出来ない、其爲にものを習ふ事が出来ない、云ふ様になつて参ります。其處に其子供は落着きがない云ふ事になつて自分の日常の生活に差支へを來たす、斯う云ふ様に考へなければならぬ。さう云ふものを、我々は、落着きのない異常性格、病的性格を考へたらよいと思ふのです。

子供の中には懶者云ふのがあります。殊に學校の仕事なんかを非常に不熱心で、少しも勉強しないさいふ子がありますが、さういふのが一種の異常性格であります。併乍ら此異常性格も、子供の遊び好き云ふ爲に懶ける云ふのであれば、夫は當然だ考へなければならぬ。子供は遊ぶ云ふ事は自然である事は皆さん常に經驗していらつしやる事ですが、其遊ぶ、斯う其處らを飛んで歩く云ふ事は當り前の事でありまして、其子供が幼稚園に來て、小學校に行つて、學業の學習をする場合であります。遊びたがつて居る爲に、學業の學習に差支へが来るか、其爲に學校の成績が悪くなつて、さう／＼落第した云ふ事になる。夫は我々は異常的の性格を持つて居る、斯う考へなければならぬと思ひます。斯う云ふ落着きがない、懶ける云ふ、さう云ふ性質云ふものは、誰でも多分云ふ語弊がありますが、多分に持つて居るものであります。私は懶けない云ふ人があるかもしれないが、大抵の人はさう云ふ性質を持つて居るのであります。こんな所へ來て、小難しい話を聞くよりは、テニスでもやつて居る方がよい云ふ人もありませんが、私は此場合懶者だ考へない、遊び好きだ考へる。學校から歸つて來て、机に向つて、晩迄勉強して御飯を食べて、又勉強して直ぐ寝たなんて子供は、之は餘程珍しい子供であつて、學校から歸れば直ぐ外を飛んで歩いて遊ぶ、其處でお母さんが

呼び立て、さあ勉強く云ふ様に呼び立て、勉強させる云ふのが當り前なのであります。當り前なのであります。夫にも拘らず勉強しない様な、何うしても暗くならなければ家へ歸つて來ない。家へ歸つて來て直ぐ寢て了ふなんて云ふミ、家の子供は勉強しないで困る、何うしたらよいでせう、ミ云ふ事になる。さう云ふのは一種の異常性格ミ考へて差支へないと思ひます。さう云ふのは、子供の持つて居るものでなくて、外の物指が當嵌るのでありますから、勉強しないミ云ひましても、田舎の子供は勉強しないでよい境遇に居りますから、東京の子供程、勉強しないで困るミ云ふ事を考へない。田舎の子供ならば當り前だミしか考へない。低能ミ云ひましても同じであります。低能に對する外からの尺度がありません。或程度以下の子供は低能ミ云ひますが、併乍ら其低能兒は、田舎では困らないが、都會生活をするには困難な危険なものミしなければならぬ。此尺度が違ふのであります。其處で我々は、田舎では餘り低能兒の問題に注意しないが、都會兒童に對しては注意しなければならぬミ云ふ事になるのであります。さう云ふ意味で、今申した様な落着きがない、懶けるミ云ふ、さう云ふ様な事は、何等からの尺度がありません。大體其處の状態によつて決つて來るミ云つてもよいのであります。夫ミ同じ意味に於て、物を盗むミ云ふ様な事は、之は直ちに、盗む事夫自身が一つの異常性格ミ云つてよいのであります。盗んでもよいミ云ふ事はありませぬ。人の家のものを一錢ミつて來た、盗んだミ云ふ事は、大いに悪い事だミしなければならぬ。詰り其子供は、其爲に自分の生活の上に差支へが來る、差支へが其處に表はれて來る譯でありますから、さう云ふものは、一つの異常性格ミ斯う考へてよい譯であります。さう云ふ様に詰り日常生活の上に差支へを來すミ云ふ、來すか來さないかミ云ふ事を標準ミして、子供の生活を見て、其子供が生活の中に落着きがないミ云ふ様なものがあつたならば、夫は我々は異常性格、病的性格ミ云ふ様な名前を付けて然るべきものであるミ考へられるのであります。

でさう云ふ様に、先づ性格の異常ミ云ふものを考へまして、其性格の異常ミ云ふものを訊ねて見ますミ云ふミ、小さな

ものであれば、例へば、爪を噛むとか、指を口に入れる云ふ様なものがありますが、之は大人の人でも口の中に手を突込んだりしよつちう口の廻りに手を當てゝ居る人がありますが、甚だ不衛生な危険なことだ云ふ事で、異常性格を認識する事が出来る。さう云ふ、やつちやいけない、さう云ふものを澤山持つて居れば、異常性格云はなければならぬ。さう云ふ事は些細な性格でありますが、大きなものになりますれば、盜癖でありますとか、其處らをぶらつく浮浪癖、小學校の子供にさう云ふのがあります。道草を食ふ、しよつちう店の先に立つて見たり、活動寫眞の看板を見たり、公園で遊んで居て暗くなつてから家に歸る。さう云ふのは生活の上に差支へがあるのであつて、一種の異常性格であります。浮浪癖があつて困る云ふ事を聞く事があります。それ等は、殊に顯著なものである云ふ事が出来るだらうと思ふのであります、異常性格云ふものは、大體さう云ふ風に考へて、子供の現在並びに將來の生活の上に差支へがなければ、我々は何う云ふ性格が表はれても、之を異常性格云はれない。夫が子供の現在並びに將來の生活に差支へがあるものを我々が認める場合には、其子供の性格は異常性格であつて、其子供の性格は適當の處理をして行く。斯う云ふ事がある譯であります。

教育の問題として之を考へて見ますと、種々の性格の教養を致します場合には、家庭の場合にはもつこ細い問題がありますけれども、今日の幼稚園及び小學校では、大體集團的の取扱ひをして居る。多くの場合には、各々の子供の夫々の性格云ふものを問題にした處が夫を取扱ふ事は極めて困難だ云はなくてはならないと思ふのです。各々の子供の性格を調べる事は、勿論試みをしてみた云ふ事にはなりません。又斯う云ふ事をやつて行つたら、子供の力の検査をした表が出来るか、其性格を調べ上げた一種の表はれば、我々の興味には充分副ふ事が出来ますけれども、各々の例へば保姆の持つて居る子供が一組三十人なら三十人、四十人なら四十人の、子供の個性の詳細を検査して、之を指導して行く云ふ事は、知る事が出来ても其指導は非常に困難である。夫は我々が家庭で子供を育てる、そして子供の個性がよく見られる

まして、夫で凡てをやり直して行くのは困難でありますから、澤山の子供を取扱ふ場合に、個々の子供の性格上の問題を我々が調べて、夫を充分適當に指導して行くに云ふ事は殆ど出来ないに云つて差支へないだらうと思ひます。まあ子供一人／＼の取扱ひでなく、集團的の處置をするにしたらば、人数が多くては、十人を越えたら駄目であります。十五人云ふのが限界だに普通外國の人が云つて居りますけれども、其十五人云ふに、既に餘程困難でありまして、十人位だつたら此子供は斯う云ふ性格の子だから斯う引張つて行く。此子供は斯うだから斯う云つて進めなければならぬ、云ふ事を我々は、個々に考へて行く事が出来るでせうが、今の様な澤山の子供に對して夫を行ふ事は我々はとても出来ないのであります。集團の儘でやつて行くより致し方ないのであります。

智能の問題でもさうでありまして、頭の程度を細かく検査しましても、此子供は此程度をもつて居る、だから此子は理解出来るが此子は理解出来ない、さう云ふ細かい取扱ひに云ふものは殆ど出来ないに云つて差支へないだらうと思ふのであります。私は五十人もつて居りますが個々にさうして居りますなんに云ふ人があつたら、驚くべき天才であつて、其人は出来ても外の人は眞似は出来ない。私の考では今日の日本の様な人口の一年に百萬人も殖える状態では、一學級の人員を十五人にする二十人にするに云ふ事は出来得べき事でない。其處で、全體の集團的の取扱ひに就ての研究を積むに云ふ事が一つの研究の題目でありませうし、もう一つは、集團の取扱ひをさうしたならば、我々は其子供の中に今云つた様な現在並びに將來の生活に差支へのある様な性格に云ふものは、出来る丈之を早く除いてやる適當な方法を講じて、其子供の爲に處置をして、其差支へを少くしてやるに云ふ事が將來の子供の爲に重大な關係をもつて居る。其點位の處に目標をおいて、普通の子供は普通の生活に應ずる様にしてやる。變つて居る子供は、其子供が當り前の生活に、普通の子供に直して行くに云ふ様な事をするのが、先づ現在の世界なり、我國の幼稚園なり、小學校なりの問題にすべき事ではないかと思ふのであります。

個性の調査といふ事を喧しく申しましても、現在の小學校や幼稚園に於て、精密にやつて精密に利用して行く事は出来ない云つてはいけないでせうが、少くも困難であります。だから餘り慾ばらないで、出来損はない様に云ふ事を念としてやつて、頂いたならば、後は親が之を引受けるなり、子供の將來の發達に備へる。況してさう云ふ意味に於て、學校なり幼稚園なりが、子供の間違つた性格云ふものを其處で作つたんで云ふ事になつたら申譯ない事になると思ひます。今の學校は往々にしてさう云ふ事があるので、學校へ行つた爲に子供が悪くなつた云ふ事があるのを聞くのであります。さう云ふ事があつてはならない。あつてはならないと同時に、若しあつたら夫を直してやる云ふ態度に、我々が自分の性格教養云ふものを、先づ程度を低めて考へて行くべきものじやないかと思ふ。其意味に於て、我々が異常性格を考へる云ふ事は、實際の幼稚園なり、實際の小學校なりに離れざる或ものがあるじやないかと思ふのであります。私は此處三年許り、色んなさう云ふ子供を取扱つて居るのであります。さう云ふ子供は實に澤山あるので、まあ我々の様にさう云ふの許りを取扱つて居るこ、他處の子供が皆さう云ふ様に見えるのであります。さうでなくても之は少いものではない。私の持つて居る子供は、一人も斯う云ふのが無くて、何にもしないでよいなんて云ふのであつたら、氣が付かないのだ見逃して居るのだが何も考へないものだから、云ふ様な事でなかつたら幸ひだと思ふのであります。以上で私は、性格異常云ふ事が何う云ふものであるか云ふ事、それから何う云ふ意味に於て我々が性格異常云ふ事を見て行くか云ふ事、もう一つは此性格異常云ふものが、現在の我國の幼兒の教育の上に、重要な意味をもつて居るのだ云ふ事を簡單にお話して見たのであります。

(以下次號)